

# 名鉄病院newsletter

平成21年 秋号



撮影 片岡 将

## ごあいさつ

名鉄病院 副院長兼地域連携室長 佐尾 浩

日頃から、当院との医療連携に多大なご協力をいただきまして、大変ありがとうございます。さて、当院では、7月から細井病院長が着任され、地域医療連携室は、細井前室長の後任として私が担当することとなりました。私は血液内科という特殊な科が専門であり、これまで地域の先生方と親しくさせていただくことはあまりありませんでした。現在、地域連携を一から勉強しているところです。今後は地域の先生方と積極的におつきあいさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

細井前室長のご努力により、当院の地域医療連携室も以前に比べるとかなり充実してまいりました。しかし、まだまだシステムが不十分で先生方にご迷惑をおかけしていることと思います。今後、一歩一歩ではありますが、システムを改善し、よりスムーズな紹介・逆紹介をめざしていきたいと思います。

その一環として名鉄病院ニュースレターも、先生方の必要な情報をより多く提供できるよう工夫していきたいと思います。当院の各診療科の現状を詳しく紹介していきたいと思います。また、診療科の活動を支える部門の紹介も順次させていただきます。

全職員一致協力して、地域の医療に貢献していきたいと思いますので、新しい名鉄病院をこれからもよろしくお願い申し上げます。

# 病院長就任のごあいさつ

名鉄病院 病院長 細井 延行



初秋の候、平素は病病、病診連携でお世話になり誠にありがとうございます。この度、名鉄病院の病院長に就任いたしました。副院長も新たに野崎、佐尾両医師が就任し、看護部：亀元部長、事務部：武藤部長、薬剤部：福田部長、検査部：原田部長の下、新しい体制でスタートいたしました。

現在、医療業界は医療費の抑制の掛け声の下、診療報酬の抑制、療養病床の削減、在宅医療の推進など様々な施策が出され、

医師だけでなく病院で働くスタッフ全てが疲弊しています。この厳しい環境下で名鉄病院を如何に地域医療に貢献できる信頼される病院として機能させていくか、新しい体制に突きつけられた大きな課題です。これに対するキーワードとして、私はバランスが最も重要だと考えています。医療連携で言えば、病病、病診連携での期待と実績です。ご紹介いただきたいという期待とそれに対する当院での受け入れや診療情報のフィードバックなど期待と実績とのバランスです。今後もこれらの課題に対し、真摯に対応していく所存です。新しい体制に伴い、私に代わって地域医療連携室長に佐尾副院長が担当する事になりました。これまでのお礼とさらなる先生方との連携をお願いいたしまして、私からのご挨拶に代えさせていただきます。



名鉄病院 執行会議

## 名鉄病院 理念・基本方針

### 1. 理念

「名鉄病院は医療倫理を守り、良質な医療を提供いたします。」

### 2. 基本方針

- (1)個性と人間性を尊重した患者さま中心の医療を行います。
- (2)医療を始めるにあたっては、患者さまへの十分な説明と患者さまの納得を重視します。
- (3)医学的根拠に基づいた医療を行い、安全医療をめざします。
- (4)地域医療機関との連携を充実し、きめ細かい医療を行います。
- (5)医療関係者の教育研修に関する病院としての役割を果たします。

## 神経内科の紹介

神経内科部長 宮尾 眞一

現在、神経内科の常勤スタッフは、宮尾のほか、高野明美付部長、水谷泰彰医師の3名です。宮尾は昭和58年卒で、脳卒中、アルツハイマー病などの認知症性疾患、パーキンソン病やパーキンソン症候群、頭痛、めまいのような、あまり難しくないありふれた疾患を主に診療しています。高野付部長は、昭和60年卒で、多発性筋炎や筋ジストロフィーなど筋疾患の専門家ですが、筋萎縮性側索硬化症などの変性疾患、ギランバレー症候群や多発性硬化症などの免疫性神経疾患、血管炎症候群、髄膜炎をはじめとする神経感染症、てんかん性疾患など、神経内科らしいややこしい疾患に知識と経験が大変豊富なベテランです。また顔面けいれんなどに対するボツリヌス治療(ボロックスB)もおこなっています。水谷医師は平成16年卒で、新臨床研修医制度から神経内科常勤医になった名鉄病院生え抜きの若手ですが、全診療科をしっかりとローテーションしているので苦手な分野がないオールマイティの医師です。とくに神経救急の現場ではすぐれた能力を発揮して、ろくな研修を受けていない私にはとても頼りになる存在です。このように人数はぎりぎりですが、ほとんどの神経疾患が対応可能です。



水谷医師 宮尾部長 高野付部長

入院患者は30～40人で、内訳は脳卒中37%、てんかん・めまい・頭痛などの発作性疾患26%、肺炎などの一般内科18%、変性疾患4%、免疫性神経疾患4%、神経感染症3%、末梢神経疾患2%、筋疾患1%です。疾患別では、脳梗塞が最も多く35%を占めます。急性期脳梗塞tPA療法も24時間体制で対応しており、これまで適応がある対象者には全例tPA治療をおこなっています。

外来患者は正確な統計はありませんが、1日60人～90人で、脳卒中・変性疾患・認知症・片頭痛・めまいなどが多いように思います。

認知症の診療についてはとくに重視していて、平成2年からシルバークリニックとして専門外来を開き、診断・治療・家族指導を一貫しておこなうことをめざしてきました。現在では1ケ月に150例程度を診療をしています。アルツハイマー病が42%と最も多いのは従来通りですが、BPSDが多彩なため受診率が高くなることを反映してレビー小体型認知症が27%と増加傾向にあります。平成19年から名古屋市医師会の「認知症ケアシステム」に加わり、西区医師会に「物忘れ相談医」の先生や地域包括支援センターと連携し認知症の診断治療方針決定をおこなうとともに、認知症患者さんが身体的疾患によって入院が必要となった際に積極的に受け入れる登録病院となっています。また院内でも各病棟に認知症に十分対応できるナースを養成するための研修会を開始し、第1期の10名がすでに終了して現在2期目が始まっています。

患者様をご紹介していただく際にはすべて連携室が対応いたしますが、申し込まれる際にMRIも希望と連携室に伝えていただきますと受診当日にさきにMRIを撮って、その後診察というかたちも可能ですので是非ご利用ください。また認知症診断についてはとくに認知症外来でなくても一般の神経内科外来でも行っておりますので曜日にかかわらず紹介ください。

〔医療設備〕CT、MRI(1.5T)は24時間対応。核医学：SPECT(脳血流シンチ)、MIBGシンチ。統計画像診断：VSRAD(MRI)やeZIS(SPECT)。電気生理：脳波・筋電図・神経伝導試験。

# 整形外科の紹介

～地域に密着し、専門的な医療を提供する 名鉄病院整形外科～  
整形外科部長 大藪 直子

高齢化の進む名古屋市西部・名古屋市北部近郊において二次救急を担う当院整形外科には、骨折患者さんや加齢による疾患で日常生活動作ができなくなった方が日々救急搬送されてきます。他病院・診療所からのご紹介で受診される患者さんも年々増えてきており、病病連携、病診連携の重要性を感じております。

当科では、一般整形外科に加えてスポーツ整形とその治療法としての関節鏡手術、脊椎外科、鏡視下脊椎手術、上下肢の各種人工関節置換術などの手術治療を行っております。また、リウマチ外来においては早期関節リウマチに対する各種寛解導入剤の投与や生物学的製剤の使用を通して関節リウマチの早期における寛解・治癒を目指す保存的治療も行っております。

平成 20 年一年間の手術件数は約 350 件、骨折手術が 110 件、人工骨頭置換術が 32 件、人工関節置換術が 20 件、脊椎手術が 8 件、関節鏡視下手術が 83 件でした。

人工関節置換術では肩関節・肘関節・股関節・膝関節に対して、関節鏡視下手術では肩関節・肘関節・手関節・股関節・膝関節（図 1）・足関節に対して治療が可能です。低侵襲性が自慢の関節鏡視下手術は日帰り手術や一泊二日の超短期入院も可能です。また脊椎脊髄疾患に対しての低侵襲性手術療法である内視鏡下手術はヘルニア摘出術・椎弓切除術（図 2）・内固定器具を用いた後側方固定術などが可能です。



前列中央 大藪部長



図 1

現在、整形外科の構成員は大藪直子、土屋篤志、幅麻里子、吉田雅人の 4 名で、4 名全員が日本整形外科学会専門医です。同リウマチ医が 2 名、同スポーツ医が 1 名（来春からは 3 名になります）で、名古屋市立大学整形外科教室より派遣される小児整形外科医、脊椎病指導医も診療に携わっており、整形外科の広い領域をカバーしています。

病棟は 3 号館にあり、個室、4 人部屋ともトイレ・洗面付きで車椅子での移動もゆったりできる広さを持っており、広いデールーム（患者さんやご家族がくつろいでお話しただけです）も備えております。

リハビリテーション室も広く、明るい雰囲気の中でゆっくり理学療法士や作業療法士と話し合いながら、指導を受けられます。院内には段差幅の異なる階段やスロープもあり、日常生活に即したリハビリを可能としています。

このような構成の名鉄病院整形外科です。専門性を保ちながら地域密着型の整形外科医療を目指していますので、ご意見やご指摘などお待ちしております。関係各位の方々にはご指導ご鞭撻をお願い致します。



図 2

## 中央手術部（麻酔科）の紹介

中央手術部長 伊藤 博隆

名鉄病院では平成 21 年度 4 月より診療群分類（DPC）包括評価制度の導入が新たに始まりました。この DPC 制度では在院日数の短縮と入院診療単価増大によって多くの収益が得られる仕組みですが、そのためには①手術件数の増加 ②集中治療の充実 ③入院医療の外来化が必須と考えられます。そして、これらの多くの部分に麻酔科が関わっており、麻酔科は病院経営の収益性の高い分野を横断的に観ることが出来る「唯一の診療科」と言えます。現代の医療先進国現場では麻酔科医が本業の手術室運営に力を尽くすことで、手術室の効率化や医療安全対策の側面から、その社会的地位の向上及び必要性が増大していることは周知の事実です。当院中央手術部では EBM（Evidence-based medicine）に基づいた世界標準の麻酔管理を日々実践するように心掛けています。



- スタッフ：常勤麻酔医 2 名（平成 21 年 7 月より 1 名増。大学の医局に属していません。質の不明なフリー麻酔医は雇用していません）、看護師 21 名（パート 1 名含）、看護助手 4 名。7 月より手術室常勤 ME 人員配置体制導入を推進中。
- パフォーマンス：緊急手術も含めて、原則 24 時間対応。昨年、平成 20 年度の年間手術件数は約 2300 件でした。殆どの手術方式に対

応。小児から 100 歳以上の高齢者に至るまで、また重篤な合併症を持った患者様に対しても対応。

- 手術室運営：現在行っている手術室の有効利用を図るための工夫をいくつか御紹介
  - ① 看護師主導によるスケジュール管理（固定手術枠が無く、術者の好きな時に手術希望可能となり、運用効率が大幅に改善。また日勤帯で終了するように手術を組むことにより無駄な時間外勤務を撲滅中）
  - ② 緊急手術を待ち時間なく入れられる事が可能（申し込み電話があって最短 5 分で手術室入室対応してます。勿論、常勤麻酔科医がいる場合ですが・・・オペ室ナースのフットワークは院内随一！）
  - ③ 一足制です（手術室運営の大きな障害になっている患者の出し入れの時間の短縮のために一足制を導入して、動線がスムーズとなりました。患者乗せ換えの必要がないので無駄な申し送り時間の短縮が可能となりました）
  - ④ 原則的に予定手術 2 時間前までの飲水フリー（少しでも術前を自然に快適に時間を過ごしていただけるようにしております。末梢ライン確保は手術室入室後に行います）
  - ⑤ ラリングマスク主体の麻酔管理（従来の喉頭鏡を用いた喉頭展開による口腔内の損傷、頸椎損傷のリスクが皆無です。術中も筋弛緩薬は一切必要ありません。全ての全身麻酔を必要とする科の症例で適応があると判断される症例で使用しております。麻酔導入、覚醒もスピーディーかつ安全です）
  - ⑥ 硬膜外麻酔は寝てからでも・・・（どうしても怖いとおっしゃる患者様には寝て



前列中央 伊藤部長

から（＝全身麻酔がかかってから）施行しています。患者様のストレスを無くすことを最優先にしております）

- ⑦ BIS & TEE & FloTrac/Vigileo System の導入（全症例で麻酔鎮静深度 BIS モニターを実施。重症例では経食道心エコーモニター、連続心拍出量などのモニター等、各種パラメーターを駆使した厳密かつきめ細かな麻酔管理を行っています。勿論、積極的に非侵襲的管理を麻酔科サイドは常に心掛けています）

## 新しく赴任した医師のご紹介

### ■ 梶田一郎（麻酔科）

この度、麻酔科に赴任した梶田と申します。手術麻酔、特に麻酔深度と瞳孔の反応についての研究を専門にしております。集中治療、ペインクリニック、救急蘇生につきましては、勉強中です。



## 名鉄病院夏まつりを開催

8/13（木）名鉄病院夏まつりが開催された。

保育士と子供達によるパネルシアター「カレーライスのおうた」をはじめ、看護師による演劇などが披露された。最後に稲三会支部長より三線演奏が行われた。『島唄』『花』などのメロディが患者様をなごませた。

（名鉄病院 イベントかえるクラブ発）



保育士と子供達によるお遊戯

## 連携室より一言

地域医療連携室は、7月より佐尾室長をむかえ新たな体制になりました。常にすばやい対応を心がけて地域の皆様に信頼されるように頑張りたいと思っております。連携室のシステムも少しずつ整備されてきましたが、まだ足りないところがあると思います。ご意見ご要望等ございましたら、下記までご一報いただければ幸いです。

※当院では、連携医療機関用の駐車場をご用意しております。ご来院の際ご使用ください。

場所：1号館前 看護宿舍横駐車場（問合せは下記まで）

<連携室からのお願い>

ご紹介いただいた患者様の受入をスムーズにするため、受付の際に

患者紹介連絡書 保険情報 診療情報提供書

を下記までFAXしてください。ご協力お願いいたします。

名鉄病院 地域医療連携室 看護師 古澤  
MSW 大久保・山口・ウォーカー祥子  
受付事務 齋藤・大澤  
〒451-8511 名古屋市西区栄生2-26-11  
TEL.052-551-6121(代) 052-586-5755(連携室) FAX.052-586-5756  
URL : <http://www.meitetsu-hospital.jp/>